

新年のご挨拶 2021年 新春

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えましたが、未だ広がりを見せ、終息の兆しが見えないコロナウイルスの影響によって、世界の多くの方たちがたいへん厳しい状況下にいらっしゃいます。まずは皆様の健康が守られ、一日も早く安全・安心な日常を取り戻されますことを、心よりお祈り申し上げます。

昨年はコロナ禍により、学会活動の多くが変更を余儀なくされました。春季大会は中止となり、秋季大会は全てリモートによる実施という新たな形式での開催となりました。秋季大会を担当された委員会等のみなさまのご尽力により、やりとりが起こりやすくなるよう工夫された発表方式など、新たな試みがなされ、充実したプログラムとなりました。初めてのことで課題もありましたが、新しい大会の方法として、手応えを得ることが出来ました。

また、活動が制約される中、大会委員会のみならず、各委員会が新しいステップとなる活動を工夫してくださっていることを、大変心強く、ありがたく思います。「例年通り」では対応できない事態に戸惑いながらも、新たな環境の中で気づくことも多々あります。会議をリモートに切り替えることで、海外の相手と直接に意見交換ができるようになり、各地域の実情を踏まえた日本語教育の課題を互いに共有することが容易になりました。多様な環境で活動なさっている会員の方々が学会活動にご参加くださることにより、これまでになかった視点からのご意見を聞くことができました。学会の委員会活動に様々な国や地域の会員の方々が大きな負担なくご参加いただけることは、大変重要なことです。これまで、学会活動を担ってくださる各委員会の委員は、東京近郊の方が圧倒的多数でしたが、今回の委員交代に当たって、全国の様々な地域で活動されている会員や海外で活動されている方が候補となっております。ご承知の通り、本学会の会員は日本国内に限らず、各国でご活躍なさっており、日本語教育の実践や研究はそれぞれの国や地域の社会的、歴史的背景等において展開されています。広く世界に開かれたことばとその教育の視野を持つ学会であることを再確認し、念頭のご挨拶といたします。

公益社団法人 日本語教育学会
会長 石井恵理子